

平成29年度 横浜市市民活動支援センター自主事業部門

(補助事業：平成29年度から平成31年度の3か年事業)

事業名：「地域の若手職員のキャリアを考え、みんなで育つネット  
ワークづくり事業」

平成29年度 横浜市市民活動支援センター自主事業

事業計画書

実施団体：特定非営利活動法人 アクションポート横浜

(第1号様式)

横浜市市民活動支援センター  
自主事業提案書

横浜市長

平成 28 年 12 月 8 日

団体名	特定非営利活動法人アクションポート横浜
主たる事務所の所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町25-1 上田ビル501号 株式会社地域計画研究所内
代表者役職氏名	代表理事 昌子住江

(代表者氏名が自署の場合は印不要)

平成 29 年度横浜市市民活動支援センター自主事業として、次のとおり提案します。

提案事業名	地域の若手職員のキャリアを考え、みんなで育つネットワークづくり
テーマ	課題解決を通じた中間支援組織の機能の充実
事業目的及び事業概要 (この欄に記載した内容は、ホームページで公表します。)	<p>今後10年先のまちづくりを考えると、現在のNPOスタッフが高齢化することで組織や地域の担い手不足が予想され、これからの市民活動を担う若手職員・関係者の育成が急務の課題となっています。この10年ほどでは若い人材が地域のNPOで働く選択肢はとても多様化しましたが、一方で地域の現場から去っていく若者も多くなりました。なぜそれらの若者は地域のNPOで働き続けることができなかったのでしょうか。特に中間支援組織では、若手職員の働き方のロールモデルが確立されていない状況が続いています。今の若手が今後の市民活動を担っていくためには、若者自らの課題意識と実践重ねて成長していけるネットワーク基盤が必要です。そこで、本事業では以下の取り組みを通して地域の後継者となる人材の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) キャリア課題を共有できる若手ネットワークの構築</li><li>2) 若手職員のためのロールモデルブック作製</li><li>3) 高校生大学生向け働き方セミナー開催</li></ol>
事業費 (当該年度)	事業の総予算額 2202 千円 横浜市補助金額 1800 千円
事業実施期間 (当該年度)	平成 29 年 4 月 1 日 ~平成 30 年 3 月 31 日
継続希望期間	継続希望 <input checked="" type="checkbox"/> あり (平成 31 年度まで) <input type="checkbox"/> なし 継続期間は最長平成 31 年度までとなります。

※「提案事業名」「団体名」「事業目的・事業概要」は、ホームページ等により公表します。また、公開ヒアリングを実施する場合に、横浜市市民活動支援センター自主事業提案書等の書類を、資料として一般に配付します。その他、提出された書類等については、原則として情報公開の対象となります。

## 事業計画書

提案事業名	地域の若手職員のキャリアを考え、みんなで育つネットワークづくり
<p>1 解決すべき課題とその背景</p>	<p>◆10年後に予想される市民活動の担い手不足。若手が育ちにくい現状。</p> <p>市内の認証法人数は1460団体を越え中間支援組織の在り方も多様になりました。しかし、今後10年先のことを考えると、現在のNPO職員が高齢化することで組織や地域の担い手不足が予想され、これからの市民活動を担う若手職員・関係者の育成が急務の課題となっています。この10年ほどでは若い人材が地域のNPOで働く選択肢はとて多様化しましたが、一方で地域の現場から去っていく若者も多くいました。なぜそれらの若者は地域のNPOで働き続けることができなかつたのでしょうか。特に中間支援組織では、若手職員の働き方のロールモデルが確立されていない状況が続いており、働き続ける上では経済的難しさだけではなく様々な障壁があると考えられます。このような課題を解決して、若手が今後を担うためには、まず若者自ら課題解決の実践重ねて成長できるネットワーク基盤が必要です。</p>
<p>2 中間支援組織としての団体の状況</p>	<p>◆若者及び企業との連携に特化した人材育成への取り組み。</p> <p>当団体では設立からこれまで NPO・企業・大学・行政等の多様なセクターの連携をテーマに事業を展開してきました。横浜サンプラザプロジェクトでは100企業、NPO インターンシップでは10大学、20団体と連携し、学生含め毎年述べ1500人の地域人材の育成をしております。</p> <p>◆若手人材が活躍する組織づくりのモデルを目指して</p> <p>設立8年が経過した2016年度には新理事として元学生スタッフの20代女性が理事に就任し、事務局スタッフも20-30代のスタッフを中心になって運営に関わるなど、積極的な若手人材の活用を行ってきました。NPOの担い手の高齢化が課題となる地域で若手人材が活躍できる組織モデルとなるよう仕組みづくりを進めております。</p> <p>◆人材育成を進める上で同世代の横の連携が少ないことが課題</p> <p>当団体では現に30代前半の事務局長が組織の中心として育ちましたが、一方でその次の核となる周辺の人材はまだ育成されていないように思われます。今後も続く組織力を高めていくには、一人の職員に負担を負わせるのではなく、多様な個性を持った人材が役割を得て活躍していける組織を目指していかなければならないと考えます。そう考えた時、近年NPO向け研修も増えてきましたが、横のつながりが今も希薄であると課題に感じています。組織を越えた連携があることで、職員のスキルアップやモチベーションの維持等、より効果的な人材育成の仕組みができるのではないかと考えます。</p>
<p>3 事業内容</p>	<p>(事業実施地域) 横浜市全域、一部市外</p> <p>(受益者、想定されるネットワークや連携協力団体とその役割)</p> <p>◇若手ネットワーク構成員：市内の20代～30代までの中間支援組織及び市民活動団体の職員</p> <p>◇プログラム展開先：地域NPO、地域企業、大学生、高校生</p> <p>(事業内容) 20代～30代の若手NPOスタッフが、地域の中で持続可能な働き方ができるようになるための課題と支援策を考え実行すると共に、更にその先の仲間や応援者となるメンターや後輩職員となるような人材の育成を、下記のアウトプットを目指して、事業を実行していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) キャリア課題を共有できる若手ネットワークの構築</li> <li>2) 若手職員のためのロールモデルブック作製</li> <li>3) 高校生大学生向け働き方セミナー開催</li> </ol>

※この頁は、提案書（第1号様式）にて継続希望「あり」とした団体のみ記入してください。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 事業計画</p>	<p><b>1) 現状の若手職員就業実態把握のためのヒアリングの実施</b></p> <p>市内で20代～30代の若手職員が勤務している又は過去に在籍していたNPO団体(おおよそ30団体)を対象に、若手職員の就業実態調査を行います。この調査を通して、若手定着に関する団体の問題意識や、若手職員の定着度とその要因について集計・分析して根本的課題が明になることを目指します。</p> <p><b>2) 若手職員定着のための3つのサポートプログラムの実行</b></p> <p><b>①キャリア課題を共有できる若手ネットワークの構築</b></p> <p>若手職員の交流会や先輩職員や関係者を招いた座談会を実施して、若手職員のキャリア課題を共有し、それらの課題を解決していくために必要な対策について議論します。この会は、主にネットワークの構成員となる地域の若手NPO職員の発掘とネットワーク作りを図ると共に、若手職員のメンターとして先輩職員や関係者(連携企業や団体)にも声がけをします。このように、若手職員だけではなく、周辺の応援者・伴走者となる人材も含めたネットワーク基盤を構築することで、参加した若手職員が多様な価値観と出会い、繰り返し実践を試みることで相互に成長していける環境の土台となります。</p> <p><b>②新たな一歩を踏み出せる実践の場</b></p> <p>若手職員を育成するには何より実践の積み重ねが重要です。団体でのヒアリングや若手ネットワークの中で議論された若手職員の課題となるポイントを抽出して、それらをテーマとした若手職員向けキャリアセミナーとフィールドワークを実施します。フィールドワークでは、メンター伴走の元、地域のNPOと社会貢献活動に悩む企業や大学と連携した小規模事業を展開します。この実践を通じて、若手職員とメンターや連携パートナーとの関係性が強化されると共に、若手職員の実践力と経験に基づく自信が醸成されます。若手職員だけではなく、メンターや連携パートナーとなる存在が育成されることも狙いとします。</p> <p><b>③若手職員のためのロールモデルブック作製</b></p> <p>この先NPOでのキャリアを考える若者が手にして参考にできるアウトプットを残すため、若手職員の理想とする働き方ロールモデルブック(小冊子)を作製し発行します。ここでは、ヒアリングで明になった若手職員のキャリア課題と、セミナーやフィールドワークの中で明らかになった若手職員のもつスキルや可能性、そしてそれらを活かしていくための組織やコミュニティの在り方についてまとめます。また、冊子以外にもNPOのキャリアに役立つ情報のブログの発信も行います。</p> <p><b>3) 高校生大学生向け働き方セミナー開催</b></p> <p>ここまでの若手職員キャリア育成実践を踏まえ、現在のNPO若手職員が考えた「10年後の横浜の担い手」について、若手職員の働き方と次世代の育成についての提言を試みます。また、それと共に10年後の若手職員候補となる高校生や大学生に向け、NPO若手職員を講師としたキャリアセミナーを展開します。ここでは、学生たちが地域と接する機会をつくと共に、地域のNPOで働く先輩との関係を構築することで、NPOの職業選択がより身近に捉えられるような働きかけを行います。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 センター事業を担う他の団体との協力・連携</p>	<p>市民活動支援センターと以下のような連携・協力をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援センター事業全体の共通のビジョンや各事業の目的を議論し共有します。</li> <li>◆支援センターの各事業や自主事業団体と、必要に応じて連携し、団体間の交流と連携を進めます。</li> <li>◆この事業で得たノウハウや実績を支援センターや利用団体と共有できるようにします。</li> <li>◆支援センター及び関係する中間支援組織と連携した企画運営と組織所属の若手育成に貢献します。</li> </ul>

6 具体的な事業内容 期待される効果 中間支援組織としての団体の姿及び予算等

H29年度	(具体的な事業内容) 1) キャリア課題を共有できる若手ネットワークの構築	
	<b>ロジック</b> ・市内のNPO団体に若手職員就業実態調査を行い、若手のキャリア課題の本質について分析します。	<b>アクション</b> ・市内の20代～30代のNPO若手職員を集めた交流会を実施して、NPOでのキャリア課題を共有します。
	(1年目に期待される効果) ・若手職員がNPOでキャリアを重ねる上の課題が明らかになります。 ・地域の若手職員がキャリア課題を共有できるネットワークが形成されます。	
	(1年目に期待される事業終了後の中間支援組織としての団体の姿) ・若手職員のリアルな本音を組織内で共有され、組織に定着するために対策が必要な課題の本質が明らかになります。	
(事業の総予算額) 2,202,800円		(横浜市補助金額) 1,800,000円
H30年度	(具体的な事業内容) 2) 若手職員のためのロールモデルブック作製	
	<b>ロジック</b> ・若手職員向けのキャリアロールモデルブック(小冊子)を作製します。 ・小冊子以外にも、若手職員のキャリア課題やメンターとの関係性についてまとめてブログ発信します。	<b>アクション</b> ・1年目で明らかになった課題に対して、若手職員向けのキャリアセミナーを実施します。 ・セミナー中、参加職員はメンターの伴走の元でフィールドワークを実践します。
	(2年目に期待される効果) ・若手職員が目指す職業ロールモデルが明らかになります。 ・若手職員を支える組織の中のメンターに必要な役割が明らかになり、職員とメンターとの関係モデルが示されます。	
	(2年目期待される事業終了後の中間支援組織としての団体の姿) ・組織の中でメンター役にあたる人材が明らかになり、若手職員と課題を共有し実践していくための組織層が強化されます。 ・ロールモデルブックの発信を通して、対外的にもビジョンを発信します。	
(事業の総予算額) 2,322,800円		(横浜市補助金額) 1,800,000円
H31年度	(具体的な事業内容) 3) 高校生大学生向け働き方セミナー開催	
	<b>ロジック</b> ・若手職員の働き方と次世代の職員育成を踏まえ、若手職員の考える10年後の横浜について提言を発信します。	<b>アクション</b> ・高校生大学生向けに、NPOを含めた職業選択をテーマにセミナーを実施します。
	(3年目に期待される効果) ・NPO若手職員を中心に、この先もみんなで育ち、稼ぐ、創る場ができます。 ・10年後の若手職員となる人材を育成する契機が生まれます。	
	(3年目期待される事業終了後の中間支援組織としての団体の姿) ・高校生大学生向けにキャリアを伝え、今後の組織を支える人材が開拓できます。 ・地域のNPOに対して、若手育成の提言をできる存在になります。	
(事業の総予算額) 2,231,800円		(横浜市補助金額) 1,800,000円

(第4号様式)

## 事業収支予算書 (平成29年度)

【収入】

(単位:円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	1,800,000円	
団体負担金	352,800円	
交流会参加費(食費代)	50,000円	2,500円×10名×2回
合計	2,202,800円	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
人件費(事業責任者)	840,000円	35,000円×2人日×12ヶ月
人件費(事務局)	960,000円	20,000円×4人日×12ヶ月
調査団体謝礼	100,000円	10,000円×10回
メンター謝金	120,000円	10,000円×12回
ヒアリング交通費	10,000円	1,000円×10回
交流会経費(会場費・講師謝金)	40,000円	20,000円×2回
事務所賃貸料(支援センター内)	52,800円	4,400円×12ヶ月
広報費(Web制作・ロゴデザイン等)	50,000円	
消耗品・通信費一式	30,000円	
合計	2,202,800円	

\* 申請する事業の収支予算を記入してください。

\* 提案が選定された後、補助金の交付申請を行う際は、支出内容について横浜市と調整を行う場合があります。

※この頁は、提案書（第1号様式）にて継続希望「あり」とした団体のみ記入してください。

## 事業収支予算書（平成30年度）

### 【収入】

（単位：円）

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	1,800,000円	
団体負担金	232,800円	
セミナー参加費	40,000円	2,000円×10名×2回
ロールモデルブック販売費	200,000円	500円×400冊
交流会参加費(食費代)	50,000円	2,500円×10名×2回
合計	2,322,800円	

### 【支出】

項目	金額	説明（使途、積算根拠等）
人件費(事業責任者)	840,000円	35,000円×2人日×12ヶ月
人件費(事務局)	960,000円	20,000円×4人日×12ヶ月
セミナー経費(会場費・講師謝金)	80,000円	40,000円×2回
メンター謝金	120,000円	10,000円×12回
交流会経費(会場費・講師謝金)	40,000円	20,000円×2回
事務所賃貸料(支援センター内)	52,800円	4,400円×12ヶ月
小冊子印刷費	200,000円	1000部
消耗品・通信費一式	30,000円	
合計	2,322,800円	

\* 申請する事業の収支予算を記入してください。

\* 提案が選定された後、補助金の交付申請を行う際は、支出内容について横浜市と調整を行う場合があります。

※この頁は、提案書（第1号様式）にて継続希望「あり」とした団体のみ記入してください。

## 事業収支予算書（平成31年度）

【収入】

（単位：円）

項 目	金 額	説 明
横浜市市民活動支援センター事業 補助金	1,800,000円	
団体負担金	306,800円	
交流会・報告会参加費(食費代)	125,000円	2,500円×10名×2回+2,500円×30名
合 計	2,231,800円	

【支出】

項 目	金 額	説 明（使途、積算根拠等）
人件費(事業責任者)	840,000円	35,000円×2人日×12ヶ月
人件費(事務局)	960,000円	20,000円×4人日×12ヶ月
セミナー交通費	9,000円	1,000円×3人×3回
セミナー経費(講師謝金)	90,000円	10,000円×3人×3回
メンター謝金	120,000円	10,000円×12回
交流会経費(会場費・講師謝金)	40,000円	20,000円×2回
活動報告会開催経費(会場費)	10,000円	1回
提言・セミナー資料印刷費	80,000円	
事務所賃貸料(支援センター内)	52,800円	4,400円×12ヶ月
消耗品・通信費一式	30,000円	
合 計	2,231,800円	

\* 申請する事業の収支予算を記入してください。

\* 提案が選定された後、補助金の交付申請を行う際は、支出内容について横浜市と調整を行う場合があります。